銀の風

Vol.43
2024.8

・看護の日
・診療科紹介／神経内科
・認定看護師紹介／認知症看護認定看護師
・地域医療連携室のおしごと
・市立病院からのお知らせ
～患者さんのお名前を確認しております～
～病院まつりについて～

『銀の風』は世界遺産「石見銀山遺跡」から着想を得ています。「石見銀山遺跡とその文化的景観」は人類の平和と人権の尊重をめざすユネスコの世界遺産に登録されています。

看護の日

令和６年５月１０日（金）『看護の日』の記念行事を開催しました。「アロマハンドマッサージ」、「血糖測定」、「フレイルチェックとフレイル予防の体操」、「低栄養予防のための食事のポイントのおはなし、たんぽぽ保育所園児の「作品展示」や「歌と踊りの披露」などを行いました。

看護の心、ケアの心、助け合いの心を一人ひとりが分かち合い、これからも当院を利用される患者さんに寄り添える病院であり続けたいと思います。

和
誠意
奉仕

1)大田二次医療圏の中核病院として、５疾病５事業を中心とした急性期医療を提供します。
2)病病・病診連携により、圏域に必要な医療提供に努めます。
3)地域での必要度の高い疾病に対し、保険・福祉と連携した予防から介護までの一体的医療サービスを提供します。
4)訪問看護等を通して在宅医療や地域医療の向上に寄与します。
5)医療水準の向上と安全な医療環境整備に努めます。
6)職員相互の協調によるチーム医療の実践と、よき医療人としての人材育成に努めます。

「地域医療連携室」のおしごと

地域医療部長のごあいさつ ／地域医療部長　菅森　峰

みなさん　こんにちは！
本年度から地域医療部長に任命された菅森です。専門は循環器内科です。

地域医療連携とは、診療所と病院、施設と病院、病院と病院との連携で、地域の開業医の先生方や、出雲地域の大きな病院のほか、大田医療圏域での各種の医療や福祉に関する機関との連携調整が主な仕事です。

全国で高齢化が進んでおり、大田医療圏域の高齢化率は全国平均以上です。高齢者を中心に、患者さんを取り巻く社会的な問題や身体的な問題が、療養継続に大きな課題となることも多くありますが、医師や看護師、社会福祉士などが協力して患者さんに応じた将来の治療や療養先を検討し、スムーズな医療連携を目指したいと考えています。

なにぶん、新しい職責ですので至らないことも多いかと思いますが、地域医療連携室職員と一丸となり、みなさんによりよい医療と福祉を提供する橋渡しができればよいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

地域医療連携室

地域医療連携室では、「入退院支援・医療相談係」と「地域医療連携係」の体制で、退院調整看護師３名、医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)２名、事務職員３名が、患者さんやご家族の皆さんが、大田地域で安心して生活できることを目標に業務を行っています。

「入退院支援・医療相談係」では、入退院や外来受診の際の関係機関との調整や相談事に関して、スムーズな連携が図れるよう、患者さんや患者さんを支援されている皆さんと院内スタッフを「つなぐ」役割をしています。特に多いのは患者さんのケアマネジャーさんとの連携です。日々のケアマネジャーさんとの情報共有は、患者さんの退院後の生活再開の支援に大変重要なものとなっています。

他院からリハビリや自宅退院調整などの目的で転院された患者さんには、安心して退院できるよう大田地域に根差した地域の病院として退院支援を行っております。医療費の相談、利用できる福祉サービスや療養についての心配ごとなど各種医療相談もお受けしています。

「地域医療連携係」は、地域医療連携の体制を強くするために本年４月に新設した係です。地域の開業医の先生方、介護や福祉などの関係機関、高次医療機関や行政などとの顔の見える関係をより一層深めていきたいと考えています。

当院を支えてくださっている各機関の方々と当院を「つなぐ」ための橋渡し役として、医療、介護、福祉が連携する様々な場で、皆さんのご意見をいただき、それを今後の地域医療のために活かしていけるよう活動していきます。

～市立病院からのお知らせ～

えがおの架け橋
～これまでも、これからも～
～25年分の感謝をこめて～

～患者さんのお名前を確認しております～

安全な医療を提供するために、診察の前や検査の前には、その都度患者さんのお名前を確認しています。
受診の際は、ご協力をお願いいたします。

～病院まつりについて～

今年も「病院まつり」を開催します。
詳しくは９月下旬にお知らせします。

■ 日　時　：　令和６年１０月２０日（日）
■ 場　所　：　大田市立病院１階フロア

大田市立病院HP
facebook

発　行：
大田市立病院
広報委員会
〒694-0063
島根県大田市大田町吉永1428-3
TEL：0854-82-0330　FAX：0854-84-7749

大田市立病院の様々な情報をホームページ・facebookに掲載しています。

診療科紹介／神経内科

三瀧　真悟
神経内科部長

当院の神経内科では、多岐にわたる神経疾患の診断・治療を行っています。神経といえば、「脳」を連想されるかもしれませんが、神経は、「脊髄」・「末梢神経」・「筋」に至るまで、全身に張り巡らされており、神経内科はそれら全ての領域を対象に診療を行っております。今回は、これらの疾患の中から普段外来で診療している代表的な疾患を５つ取り上げて紹介します。

『脳卒中』

「脳梗塞」及び「脳出血」の治療を行います。特に「脳梗塞」の治療は時間との勝負であり、発症から４時間30分以内であれば、通常の治療に加えて血栓溶解薬の点滴治療が可能です。しゃべりにくい、手足がしびれるなどの症状が出現した場合は、家で様子を見るのではなく、できるだけ早い受診をおすすめします。早ければその分治療の選択肢が増えます。

また、近年はカテーテルを用いて血栓を取り除く治療も発達しており、その様な治療が必要な場合は、島根大学医学部附属病院や島根県立中央病院へ紹介しています。

『パーキンソン病』

65歳以上の方では、100人に１人の患者がいると考えられており、みなさんの周りを見渡せば数人はいるぐらいの頻度の高い疾患で、今後も増加していくと考えられています。手が震える、動作が鈍くなる、転びやすい、歩きにくいなどの症状がでます。症状を改善する薬は数多くあります。それらの薬を組み合わせて治療を行います。

『片頭痛』

たかが頭痛とあきらめていませんか？片頭痛は特に若い、働き盛りの人に多い疾患ですが、実は70％の人が病院を受診せず、市販の鎮痛剤で対処しているといわれています。片頭痛は市販の鎮痛薬が効かないことも多くあるようで、頭痛のために仕事に行けないなど生活への支障も高い痛みを伴う病気です。

当院では、片頭痛の痛みに特化した鎮痛薬や頭痛自体を予防する薬を用いて治療を行っています。

『認知症』

高齢化に伴い増加しており、65歳以上の３人に１人が認知症あるいはその予備群との報告もあります。アルツハイマー病が代表疾患ですが、その他にも物忘れを起こす疾患はあり、ＭＲＩや脳血流検査を用いて、認知症の原因を特定し治療を行っています。

『てんかん』

子どもの病気と思われがちですが、実は65歳以上の高齢者は子ども以上に発症しやすいと言われています。また、手足のけいれんを起こすのではなく、ぼーっとする、不注意になる、もうろうとする、無反応になる、奇異な行動を起こすなどの症状を呈することもあり、認知症と間違えられていることもあります。ＭＲＩや脳波で診断し、抗てんかん薬を使用すれば症状の改善が期待できます。

『神経内科医師』

山形　真吾
◆診察日
月曜日

三瀧　真悟
◆診察日
水曜日

ちょんぼし紹介

三瀧先生の休日の過ごし方は？

子どもと過ごすことが多いです。神戸川土手をよくジョギングしています。最近は子どもの速さについて行けず、最後は一人になっています。

ぎんざんテレビ「銀の風～大田市立病院からのお知らせ」で、三瀧医師が神経内科をわかりやすく紹介します。
【放映日】
８月26日（月）
午後５時～※以降再放送あり

認知症看護認定看護師

Q1 普段はどんな仕事をしていますか？

地域包括ケア病棟で勤務しています。認知症看護認定看護師としては、毎週木曜日に活動しており、メンタルヘルス科の院内往診に同行し、認知症患者さんや、せん妄（※）を発症した患者さんのケアに関わっています。

また、毎月、認知症ケア委員会を開催し、認知症患者さんの「その人らしさ」を支援できる看護を提供するため、各病棟の認知症看護を実践しているリーダー的存在のリンクナースと共に、患者さんの療養の環境、ケアの実施状況など振り返りや助言をしています。

※せん妄とは…
薬や様々な身体疾患が原因となって脳の働きが鈍ることです。症状としては、半分現実、半分夢の中にいるような状態であり、ぼやけた言動だけでなく、場合によっては、幻覚・妄想・興奮状態の症状が現れます。

Q2 認知症看護認定看護師になろうと思ったのはなぜですか？

回復期病棟に勤務している時に、入院されていたＢＰＳＤ（※）が悪化した認知症患者さんが、「何もわからんようになってしまった。つまらんくなってしまった。情けない。」と言われた言葉に心を動かされたからです。認知症患者さんは、何もわからなくなったのではなく、わからなくなったことを自覚し、自分自身を忘れていない、辛い想いをされているということに気付かされました。この時から私は認知症患者さんの『言葉にならない声、想いを聴きたい』と思うようになりました。

※ＢＰＳＤとは…
認知症患者さんに生じる行動・心理症状のことです。行動症状としては、徘徊・暴言・暴力などがあり、心理症状としては、不安・うつ状態・幻覚・妄想などがあります。

Q3 認知症看護認定看護師として、患者さんやご家族に伝えたいことは？

高齢化が進むにつれ、今後、認知症を抱えて生活する人は増加するといわれています。介護する人、ご家族は大変なことではありますが、一番辛いのは認知症を患った本人だと思います。認知症は徐々に進行する病気です。しかし対応によっては、「その人らしく」「豊かな表情」で住み慣れた場所で生きていけると思います。認知症だからなにもできなくなるのではなく、できることは沢山あって、昔のことや、古い記憶を辿ることで、可能性に光を当てることができるものだと思います。

『オレンジカフェ』
認知症の人やそのご家族が、同じ悩みを語り合い、認知症に関する理解を深め、家族同士の交流を図ることを目的とした「オレンジカフェ」を開催しています。お気軽にご参加ください。
■開催日　毎月第２水曜日
■時　間　午前10時から１時間程度
■場　所　院内売店隣多目的スペース

ちょんぼし紹介

田中看護師のおススメの場所は？

食堂を兼ねている病棟ホールです。「０８５４－８体操」やレクリエーション、季節に合わせた作業など、リハビリスタッフとともに行っています。

田中　めぐみ　主任看護師
（認知症看護認定看護師）

※認知症看護認定看護師とは…
ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有する者で、公益社団法人日本看護協会の認定を受けた看護師のうち、認知症看護に関する豊富な知識と技術を持つ看護師のことです。

認定看護師紹介／認知症看護認定看護師